

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第1回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年5月21日(木) 午後3時35分～午後4時15分	
会場	練馬区立開進第二中学校 セミナーハウス	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、片柳博文、山口義一、加藤芳和 武井和幸、井上康子、三浦秀樹（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	谷川拓也 指導主事

1 アドバイザーの挨拶

アドバイザー

私は30年ほどNHKでアナウンサーをしておりました。在職中から教師セミナーと称して全国各地の先生方と一緒にコミュニケーション能力アップの勉強しており、50代半ばでNHKを退職してからは、お茶の水女子大学で10年ほど留学生の日本語教育に携わりました。その後、スピーチコミュニケーション教育研究所を立ちあげ、主に全国の小学校の国語の授業づくりのようなもののお手伝いを致しております。どうぞよろしく申し上げます。

2 事務局からの説明ほか

事務局

本部会は、小中一貫教育資料作成委員会のなかでは「表現力」についての資料を作成する。2年間の作業になるが、今年度は8回ほどの部会を開催し中間報告書を作成する。次年度には児童生徒用のテキスト、教師用の指導書の作成を考えている。概要については資料の方でご確認いただきたい。また、本日はアドバイザーの先生の日程を優先して、今後の日程を決めたい。もう1点、部長を選出する。事務局として校長先生にお願いしたい。

委員

私より部長先生の方が校長としての経験も長いのでふさわしいと思う。

部長

皆さんの協力をいただき努めさせていただく。

事務局

日程の方を決めたい。

【検討結果】

第2回 6月23日(火) 15:30～

第3回 7月9日(木) 15:30～

第4回 7月27日(月) 13:30～

第5回 8月27日(木) 15:30～

*会場は全日程、練馬区役所とする

事務局

これ以降の日程は第4回あたりの部会で決定したい。本日、配布した資料については次回までに目を通し、「表現力」や今後どんなものをつくっていくのかの大まかなイメージをとらえてほしい。必要な資料があれば事務局で用意する。

委員

最終的にいわゆる「表現科」のようなものを作りたいのか。各教科の表現力の育成にかかわる学習内容や活動を抽出して済むわけではないし、最終的にテキスト、指導書を作るということなら「表現科」ではないか。区としての基本的な考えが見えない。またアドバイザーの先生の経歴からすると国語が中心なのか、もっと広く考えるという討議になるのか。

事務局

「表現科」というくくりでは考えていない。イメージの基となるのは町田市と横浜市の実践だ。教科にはこだわっておらず委員の先生も各教科から参加してもらっている。

(各委員から専門教科等を含め自己紹介)

アドバイザー

推進委員会のなかでも「表現力」より「コミュニケーション能力」を目指すべきではないかという議論があった。そのどちらを目指すのか、それとも「コミュニケーション能力」の1つとして「表現力」を目指すのか、練馬区の意味を尊重する必要がある。途中で違うということにならないようスタート時点で意思統一しておきたい。また「表現力」というとどうしても1対多の場面でしっかりと伝えられる事ととらえがちだが、「コミュニケーション能力」には「聞く力」も大事なので広げていかなければならない。

委員

このメンバーを選定した時の想定があると思う。国語以外の教科で「聞く力」というのはどうか。

委員 (美術)

「見る力」はあるが「聞く力」は別物と思う。

委員 (音楽)

新指導要領からは聞いたものを言語化して相手に伝える活動を重視している。ただ、聞き取るというより感じ取る、感性の域だと思う。

アドバイザー

美術でもコミュニケーションの力を追求するのは可能だが、練馬区を考える表現の場合、絵そのもので気持ちを表すということと感じる。私としては大きな枠組みのなかでコミュニケー

ションの基盤として「表現力」を押さえておきたい。

委員

話し合い等のやりとりがなく、ただ発信するということであれば一方通行という印象だ。

事務局

その点については資料の概要でも触れており、幅広い意味でとらえてもらってかまわない。
次回6月23日までに資料をもう一度見ていただきたい。事務局では新たな資料を用意する。

(事務局から各委員に委嘱状を交付)